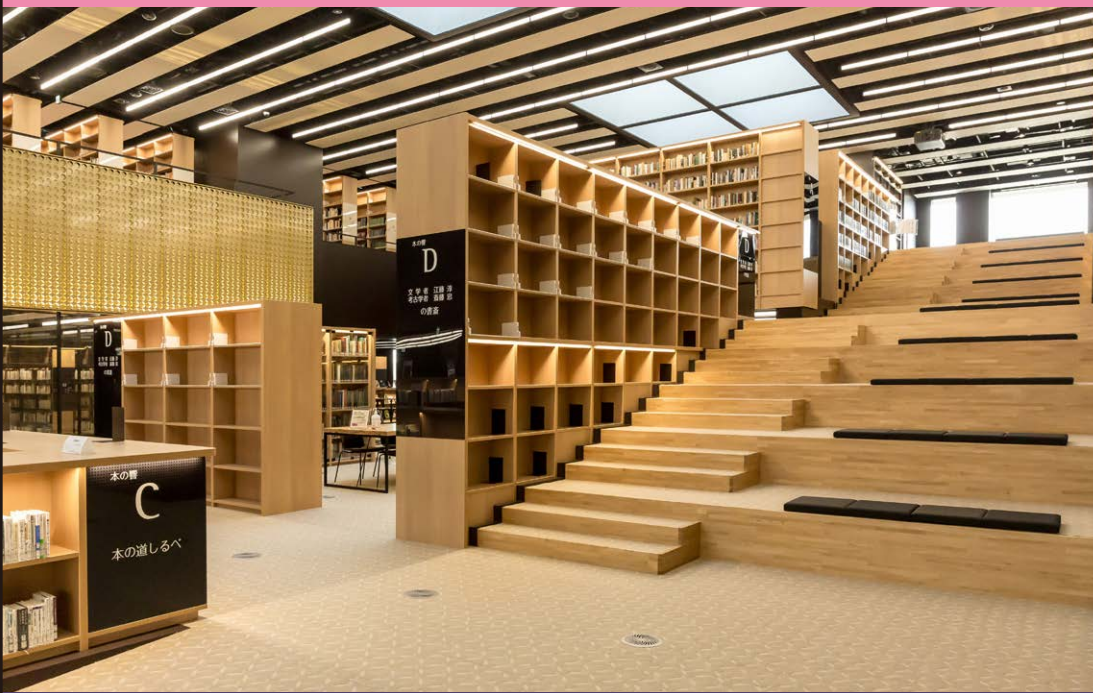




大正大学

名称 : 学校法人 大正大学
所在地 : 東京都豊島区西巣鴨3-20-1
学部学科 : 仏教学部・文学部・表現学部・人間学部・臨床心理学部・地域創生学部
学生数 : 4,821名(2024年度)
(学部4,669名・大学院152名)
特色等 : 大乘仏教の精神である「智慧と慈悲の実践」を建学の理念とし、2026年に創立100周年を迎える。地域と共に歩む大学として「地域戦略人材」の育成に力を入れており、大学教育の根本的改革を推進している。

地域と共に歩む DX時代の図書館サービス

ECCL 導入前の 課題

- ◎検索機能や情報発信機能などにおける柔軟性の低さ
- ◎ページデザイン上の視認性の低さ
- ◎更なる業務改善の模索 など

- ◎ユーザビリティの根幹である検索性の向上
- ◎ホームページの視認性向上による図書館情報の認知度向上
- ◎施設予約機能(オプション)による利便性向上
- ◎個人履歴ページの機能向上
- ◎他大学図書館への相互貸借申し込みの簡便化
- ◎新規資料受入管理の省力化
- ◎外部問い合わせ作業の省力化 など

ECCL 導入後の 効果

E-CatsLibrary for Cloud (ECCL) は、大学向け図書館システム「E-CatsLibrary」のSaaS版です。

※E-CatsLibraryは、株式会社シー・エム・エスの製品です。

導入の経緯

DX化におけるシステム変更 利用者ファーストの実現に向けて

2023年春以降、学務系システムの更新、事務系システムの更新、情報基盤の整備などDX化の流れの中で図書館システムの更新を実施した大正大学様。多くのシステムを連携させるため、発生源入力、データ連携の自動化、データの一元管理をDX化の基本方針としています。DX推進を担当する経営マネジメント本部部長の尾白克子氏は、「入手したデータを学生・地域サービスの向上や教職員の働き方改革に活用することがDXの目的」と明言します。同様の図書館は2020年11月にグランドオープン。学生・教職員はもちろん、地域住民約500名、近隣の中高生約1,000名が利用登録し、「地域に開かれた大学」の図書館として親しまれています。「これを機にシステムも新しい建物にふさわしいものにしたいと

考えました」と語るのは、図書館長・教授の稲井達也氏です。「あくまでも利用者ファーストで、誰が使っても使いやすいバリアフリー化された図書館を目指しています。職員とともに社会に情報を発信し、さまざまな価値観を創造していきたい。図書館という、ひとつの枠組みに収まりがちな場所だからこそ、逆にブレイクスルーしやすいと私は考えています」。従来のシステムは25年前に導入されたもので、職員の間でも「検索の自由度を高めたい」「ホームページ上で優先したい情報の位置を調整したい」「もっと見やすいページにしたい」などの声が上がっていました。そこで以下の4点を重視して、新たなシステムとパートナー事業者選定を行いました。

- ①利用者の利便性向上
 - ②職員の業務効率化
 - ③拡張性・発展性
 - ④パートナー事業者によるサポート体制の充実
- 選定後の2024年9月、NECネットエスアイが

導入サポートする「E-CatsLibrary for Cloud (ECCL)」の運用が開始しました。

「NECネットエスアイは非常に緻密にヒアリングし、本学の意向を細かな部分まで聞き出してくれました。Win-Winの関係を築ける業者だと考え、パートナーに選定しました」(稲井氏)。

大正大学 図書館長
稲井 達也 教授



導入後の効果

ユーザー満足度を高める 利便性、効率性、そして信頼性の向上

ECCL導入後、同館では次の効果が確認できています。

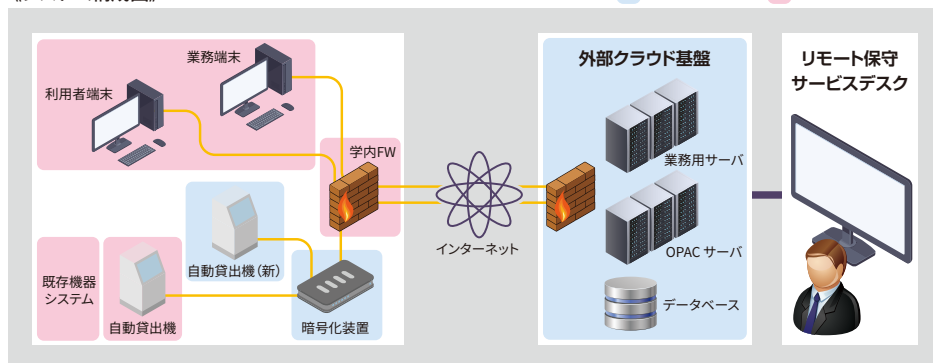
利用者の利便性向上

図書館利用者にとって、もっとも利便性に直結するのが検索性の向上です。同館では約67万冊の資料を閲覧することができますが、新システムでは予測検索機能などが向上した結果、曖昧な検索でも欲しい結果が表示されるようになり、検索時間の短縮につながりました。他大学の図書館に貸出依頼する際の工程も簡略化され、「資料を探しやすくなった」「取り寄せしやすくなった」という声が学生や教員から届いています。



特に担当する学生の研究テーマごとに多彩な資料を集める必要がある教員にとって、個人のポータル画面に個人の履歴がしっかり残ることが、「いつ、何を借りたのか過去にさかのぼって調べやすく、後追いがしやすい」という利点を生んでいます。一方、学生は「気が付いたら画面が変わっていた」といい、旧システムからのシームレスな移行により、図書館利用で最も重要な「欲しいものを検索する」機能が、いつもと同じように利用できることが学生にとって最大のメリットとなりました。また、学生は館内の施設をグループ学習などに利用する機会が少なくありませんが、施設予約機能（オプション）により「いつでもどこでも予約ができる」ようになったことも喜ばれています。さらに図書館を運営する職員にとっては、重要なお知らせをホームページの見やすい位置に配置できるようになり、利用者の認知度向上につながっています。

《システム構成図》



職員の業務効率化

図書館業務で大きな比率を占めるのが、新規の図書・雑誌の受入管理です。同館の新規資料は年間数千冊。新システムでは受入の際のデータ登録の手数が減ったことや、雑誌の年間発注に自動リピート機能があることから、作業時間の大幅な削減を見込んでいます。以前はFAXでやりとりしていた外部の図書館からの問い合わせについても、WEB上で完結できるようになり、送受信の手間が解消しました。

パートナー事業者によるサポート体制の充実

提案段階でのわかりやすい資料によるシステム説明や自由に操作できるデモ環境の提供があり、職員からは「早い段階から使用時のイメージを描けたことが大きな安心感につながった」という声が寄せられました。安心感は導入後も続き、「お打合せのたびに多種多様な質問をしたが、正確かつスピーディな回答があった」「学内の複数のシステムとのデータ連携にも柔軟に対応してくれた」など、NECネットエスアイのサポート体制に信頼を寄せる様子が窺えました。

今後の展開

大学DX化の一端を担う インクルーシブな図書館を目指して

導入後数カ月が経過し、同館では現在も日々システムの機能追加や新たにICタグの導入などを検討しています。ICタグには閲覧状況の把握、貸出作業の省力化、所在不明の蔵書の探索、蔵書点検のスピード向上とそれによる開館日数

の増加など、さまざまな利用者メリットと作業効率化が期待されており、NECネットエスアイならスムーズに導入できることも選定理由のひとつでした。

「システムは導入して終わりではなく、むしろ運用開始がスタートであり、日々向上させることが大切。システムは目立たないところから図書館を支える“縁の下の力持ち”です。私たちも利用者サービスを積み重ね、包摂的（インクルーシブ）な図書館を創り上げていきたいと考えています」（稲井氏）

さらに図書館も含めた全学のDX化として大正大学様が今後検討しているのが、学生がスマートフォンだけですべての学生サービスを利用できる取り組みです。

「先進の取り組みを進めるためにも、NECネットエスアイには私たちが入手できない情報を教えていただければ、ともに取り組む意味が深まると考えています」（尾白氏）

経営マネジメント本部
尾白 克子 部長



NECネットエスアイ

NECネットエスアイは高い技術力と豊富な実績でお客様の課題に寄り添い、設計・構築・保守運用までワンストップでサポートします。

大学向けソリューションはこちら



お問い合わせは、下記のNECネットエスアイへ

DXソリューション事業本部

金融・パブリックソリューション事業部 パブリックソリューション部

e-mail:lib-info@ml.nesic.com URL:http://www.nesic.co.jp

※E-CatsLibraryは、株式会社シー・エム・エスの登録商標です。
※記載されている会社名、サービス名、商品名は、各社の商標または登録商標です。
※記載内容は、2025年3月現在のものです。予告なく変更する場合がございます。

NECネットエスアイ株式会社

〒108-8515 東京都港区芝浦3-9-14 NECネットエスアイ本社ビル